第17号
2016 VOL.1
隔月誌
平成28年1月発行

かなえるレター

かなえるリハビリ訪問看護ステーション

新年あけましておめでとうございます！



（ご利用者コメント）
一枚の紙で作っている為、最初に折った鶴は簡単だったが、連なっていくため徐々に折っていくのが難しかった。

四條畷市
横井　利行さま
作品　「折り鶴」

かなえるリハビリ訪問看護ステーション

ご利用者数　H27/12/15 時点
介護保険 802 名　その他　8 名
医療保険 348 名　計 1158 名　社員数 85 名

かなえるリハビリ訪問看護ステーション都

ご利用者数　H27/12/14 時点
介護保険 179 名　その他　4 名
医療保険　21 名　計 204 名　社員数 16 名

ご利用者からの投稿募集



かなえるレターではご利用者の投稿を募集しています。あなたの作品をこの紙面で発表してみませんか？詳細は郵送、FAX、メール、または、訪問スタッフまでお問い合わせ下さい。あなたの投稿をお待ちしております。

かなえるリハビリ
訪問看護ステーション
〒550-0015
大阪市西区南堀江 1-16-15
名城ビル 4 階 D 号室

Tel　06-6531-3500
Fax　06-6531-3510

かなえるリハビリ
訪問看護ステーション都
〒604-8371
京都市中京区
御池通神泉苑西入
神泉苑町 1-11　コマ・ビル 3 階
Tel　075-803-0536
Fax　075-803-0537

かなえる　～ご利用者とともに～



理学療法士
森本　誠司

今回は当事業所のサービスを利用されている横井さまの紹介です。
横井さまは 70 歳代後半の男性で脳梗塞と多発性硬化症の影響で左半身に麻痺が残存している状態です。病前は米屋を営んでおり経営や販売を自ら行い、生計を立てておられました。

横井さまの人生におけるモットーに「少年のような探究心を忘れない」があります。今までにも紙粘土・水墨画・植木・盆栽・日曜大工・水道工事などをされており、気になることがあれば実行せずにはいられないとのことです。脳梗塞発症後も、病院で指を使う事が脳への刺激に良いと聞き、始めたのが折り紙です。

開始当初は一折りするのがやっとでしたが今ではピンセットを使い細かな作業が可能になり、今回はその作品の一部をかなえるレターに掲載させていただきました。

そんな横井さまに負けるのが悔しいと仕上げる奥さまの作品もまた素晴らしく、ご自宅の所々に飾られています。これも新しいご夫婦のカタチではないでしょうか！！





パソコンに取り組む
横井さま



リハビリのご様子





横井さま　作品



そんな横井さまご夫婦が現在夢中になっているのがパソコンです。元々は奥さまがパソコン教室に通われており、教室で覚えた事を自宅で復習する姿に横井さまも刺激を受け、ご夫婦で通われるようになりました。

写真や音楽を取り込み CD を作成したり、パソコンで設計した祝い箸やポチ袋を作成したりと高度なことまでお手の物です。現在では公民館で講師をされることもあり、私たちもその講座の運営に携わらせていただいています。

訪問リハビリ導入前より趣味活動や社会参加に取り組まれている横井さまですが、多発性硬化症といった難病も患われています。現状の生活をこれからも長く続けていただくために、リハビリでは身体に負担のかかりにくい動作練習（座位立位の姿勢調整や立ち上がり・歩行練習）を実施し、自己認識を繰り返し行っており、現在のところ症状は安定しています。

横井さまご本人は、現在の歩行に納得がいっておらず、常に向上心をもってリハビリに臨まれています。今後は横井さまが地域の中心となって「活動」や「参加」の輪を広げていただける事を新たな目標としています。

新年のご挨拶



代表取締役　谷　隆博

みなさま、新年あけましておめでとうございます。

旧年中は格別のご厚情を賜り、厚く御礼を申し上げます。かなえるリハビリ訪問看護ステーションは 4 度目、京都のかなえるリハビリ訪問看護ステーション都は 2 度目のお正月を迎えることができました。これもひとえにみなさまのご支援の賜物と、心より感謝しております。

さて、住み慣れた地域で自分らしい暮らしを人生の最後まで続けることができるよう地域包括ケアシステムの整備が進められていますが、これは高齢者のみならず地域で暮らすすべての方を対象としています。このような中、株式会社かなえるリンクでは大阪市西区において障害児相談支援・児童発達支援・放課後等デイサービス・保育所等訪問支援を行う複合事業所の開設を計画しております。



本年も社員一同、みなさまから信頼され、頼られる医療専門職となるように努める所存でございますので、何とぞ昨年同様のご愛顧を賜りますよう、お願い申し上げます。

みなさまのご健勝とご多幸を心よりお祈り申し上げます。本年もどうぞよろしくお願いいたします。

リハビリまめ知識

喉が詰まった時の対処法

かなえるリハビリ
訪問看護ステーション都
言語聴覚士
北川　朝子



高齢者は、食べ物による窒息事故が起きやすいものです。気道は 3～6 分間閉塞すると死亡することもありますので、予防や応急手当の方法を知っておくと安心です。

＜応急処置＞※成人・高齢者の場合

まずは確認！
「のどが詰まったの？」などと尋ねてみましょう。

・正常に声を出すことができない
・うなずいたりするのが精一杯な状態
→「窒息」と判断
→速やかに救急車を呼びましょう。



・咳をすることが可能
→咳を出来るだけ続けてもらう。
※咳は異物の除去に最も効果的です。
さらに、以下の方法で異物を取り除きます。

①腹部突き上げ法（ハイムリッヒ法）

腕を後ろから回し片手で握りこぶしを作り、そのこぶしの親指側を傷病者のへそより上、みぞおちに当てるようにして、もう一方の手でこぶしの上を握り、すばやく手前上方に向かって圧迫するように押し上げます。
この方法は、意識がない傷病者、乳児、妊婦に行うことはできません。

①



②背部叩打法（はいぶこうだほう）

ひざまずいて、窒息している人を自分の方に向けて横向きにします。
次に手の付け根で肩甲骨（けんこうこつ）の間を力強く何度も叩きます。

②



かなえる TOPIC

かなえるプラス勉強会　開催！



当事業所では、毎年 12 月に全社員を対象に「かなえるプラス勉強会」を開催しております。今回は、12/13（日）に開催いたしました。この勉強会は、ご利用者に「より良いサービスを提供するために必要なこと」を全社員で学び、情報共有することを目的としています。

今年度の勉強会では、車椅子ツインバスケットボールチーム「Faith.」代表の奥野豊信氏にご講演いただきました。奥野氏は、脊髄損傷を受傷された「障がい者アスリート」です。講演会ではご自身の人生経験や日常生活で使用されている自助具の紹介、車椅子ツインバスケットボールについて、実演も交えながらわかりやすくご講演いただきました。講演の中で皆が感銘を受けたのは、奥野氏の「障がい受容」についての内容でし

受傷当時から現在まで、障がいとの向き合い方や考え方がどのように変化し、日々生活されてきたか、生の声を聞かせていただきました。当事者の経験や気持ちを聞くことが出来る機会は少ないため、「当事者の気持ちへの共感」ということを考える良い機会になりました。



また、午後からは「看護とリハビリの連携」というテーマで、講義と事例発表、グループワークを行いました。ご利用者に良いサービスを提供するために、看護師と療法士がどのような連携をすべきか、社員それぞれの日々の取り組みを発表し、意見を出し合い有意義な勉強会となりました。

来年度も「かなえるプラス勉強会」を含めた、「ご利用者第一」という会社方針にのっとった取り組みを実施し、社員一同研鑽を重ねたいと考えております。

教育研修部　門田　淳志

ご利用者投稿のコーナー

KANAERU LINK

（担当スタッフより）
鈴木さまは日常生活を楽しく過ごすために、趣味で絵葉書の作成をされています。今回の作品は、利き手が使いにくい中、一生懸命作成された年賀状です。いつも楽しく作品を拝見しています。





東大阪市
鈴木　孝子さま
作品　「絵葉書」



四條畷市
麻野　洋子さま
作品　「人形」

（ご利用者コメント）
細かいところは難しかったですが、手のリハビリになって大変良かったです。かわいいので、見てやって下さい。

（担当スタッフより）
作品は以前からこつこつと作成されており、今回かなえるレターに掲載されることをとても楽しみにされていました。訪問時にはご家族と共にいつも笑顔で迎えて下さり、元気をいただいています。これからもどうぞよろしくお願いします。



新年あけましておめでとうございます。昨年は多くの作品を提供いただき、ありがとうございました。今年度もより一層充実した内容のかなえるレターを作成し、皆様に笑顔をお届けできるよう努めてまいります。かなえるレターの掲載にご協力いただける方は療法士、看護師にお気軽に声掛けください。今年もよろしくお願いいたします。

編集者　下川　貴大